

# 社報 御霊本宮

第73号

発行者

御霊神社本宮  
宮司 藤井利夫  
五條市霊安寺町  
0747-23-0178

発行日

令和3年  
3月1日

## 御屋根葺替事業奉賛会結成

### 本年秋より着工予定

本社の本殿は檜皮葺きです。前回の葺替は昭和四十五年（一九七〇）でしたので、五十年経過したことになりました。檜皮は約三十年で葺き替えるのが一般的だそうです。



網で檜皮の崩れを防いでいます

四年前に屋根に穴が開いていることが確認され、氏子の奉仕で鉄板をはめ込んで応急処置をしていただきました。その後、強い雨風があると檜皮が崩れてくるようになりました。応急

処置のため屋根に上がろうとすると、檜皮を踏み抜くことがあり、応急処置ができなくなりました。そこで、県および市文化財保存課に本殿屋根葺替の陳情を行ってきたところ、今秋から着工予定となりました。昨年十二月下旬に、御神像を安置している場所にまで雨漏りが確認されました。そのような状態のところ葺替が決定したことは、誠にありがたいことです。総事業費は一億四千万円で、本社負担額は約四千万円、工期は令和五年度末までとなっています。現在、奉賛会を設立し詳細を協議しているところです。具体的なことが決まりましたら

社報、ホームページ等でお知らせさせていただきます。その節には皆様にご奉賛のお願いをさせていただきますことになりす。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 本殿紹介

記録があるものとしては、三回兵火に罹って焼失しています。現在の本殿は、棟札により寛永十四年（一六三七）に建立されたことが判明しています。安土桃山様式の残る江戸時代初期

の建物です。三間社流造（奥行き二間で、市内最大の本殿です。縁が背面まで付けられているのも市内唯一となっています。

向拝柱の虹梁両端には獅子、妻梁には象鼻、墓股にはいろんな動物や植物が彫られ、賑やかです。（三頁に神社建築について解説）

全体に漆が塗られ、極彩色もされていますが、今は一部を残して大部分が剥落しています。

宇智郡 狛犬めぐり  
二見 二見神社

平成二十六年に奉納された新しい狛犬です。

過去二回

で紹介した狛犬と違うのは、尾が平べったく渦を巻くような模様になっている「团扇」型ではなく、尾が立っている「立尾」となっているところです。また、耳も立っています。眼球も大きく、他の狛犬より大きく目を見開いているように見えます。吽形に角はありません。



像高は約六〇cm、頭から尾までの横幅も約六〇cmとなっています。たてがみはふさふさしてボリュームたっぷり、思わず触りたくなりました。

一度は行きたい日本の祭り 四月

# 手力の火祭

岐阜県岐阜市



岐阜市蔵前にある手力雄神社の春

祭りは、岐阜県重要無形民俗文化財に指定されている勇壮な火の祭典です。起源は定かではありませんが、少なくとも三百年以上の歴史があるといわれています。

八地域の飾り神輿が爆竹と半鐘を鳴らしながら町を練り歩きます。飾り

神輿は毎年、各町で工夫を凝らして製作します。午後六時に宮入りが完了し

夜七時頃になると、高さ二〇mの竿に

十個の行灯あんどんを付けた、三角形の御神灯

に火を入れます。導火線とロケット花

火を使用し、地面から御神灯にむけて

火を放ち点火します。御神灯の点火方

法には各地域で様々な工夫や仕掛け

が施してあり、火の入り方の違いを比

べるのも楽しみの一つです。

その後、高さ二〇mの滝花火に点火

され、爆竹音が境内に響き渡る中、花

火が仕掛けられた神輿を裸男たちが

威勢良く担ぎ乱舞します。この火の粉

を浴びると一年間無病息災になる、と

いう言い伝えもあるそうです。

本祭は四月第二土曜日ですが、観光

用に夏（八月の第二日曜日）にも長良

川公園河川敷にて開催されます。なお

今年の春祭りはコロナの関係で中止

が決定しています。問合せは、電話0

58(266)5588岐阜観光コンベンション協会まで。

## 手力雄神社

貞観二年（八六〇）に鎮座したと伝

えられ、弘治年間（一五五五〜八）に

は齊藤氏の祈願所になっています。

中世には織田信長に、関ヶ原の戦い

では徳川家康の襲撃を受け焼失して

います。元和年間（一六一五〜二四）

に本殿・拝殿などが再建され、幣殿・

拝殿は明治十三年（一八八二）に再度

造営されています。現在の社殿は平成

二十年（二〇〇八）に新築されました。

御祭神は手力雄神で、手の力の強い

男神という意味です。記紀では、天の

岩戸に隠れた天照大神が、外の様子を

窺おうとしたところを、手を取って引

き出した神です。

日本書紀の一書には、細く開けられ

た岩戸を大きく引き開けたとありま

す。古事記では、天孫降臨のときに随

伴して下り、伊勢の佐那之さなのあがた県に鎮座し

八百万の神々

底筒男命そこつつのおのみこと

中筒男命なかつつのおのみこと

上筒男命うわつつのおのみこと

綿津見三神わたつみが生まれたとき、同じく

して水底で底筒男命、中層で中筒男

命、水上で上筒男命が出現していま

す。この三柱の神は住吉三神、または

墨江三神すみえと呼ばれます。

住吉は、現在は「すみよし」ですが、

ももとは「すみのえ」または「すみ

え」と読んでいました。

大阪市の住吉大社には、この三柱の

神と息長足姫命おきながたらしひのみこと（神功皇后）が祀られ

ています。神功皇后は住吉神の神託も

あつて新羅征討を成功させました。ま

た、住吉神は神功皇后に、「この国は

汝命の御腹にます御子の知らさむ（治

める）国なり」と告げました。この御

子はのちの応神天皇で、生まれる前か

ら国を治めるとされたので、胎中天皇

と呼ばれました。

(3)

# 神社本殿建築様式

建物の基本形として「切妻造」<sup>きりまづくり</sup>があります。二面を山形に合せた屋根の建物をいいます。出入口の位置によって「妻入り」「平入り」と呼びます。妻入りは屋根の側面（三角形に見える面）に出入口がある様式で、平入りは軒下に入出口がある様式をいいます。春日造は「切妻妻入り」で、流造は「切妻平入り」となります。

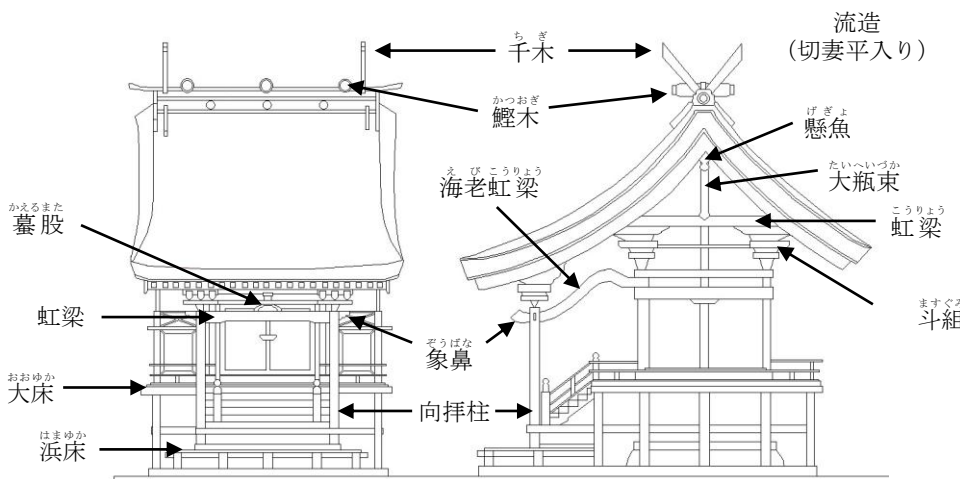
本殿の建築様式は切妻造を基本としていますが、構造により約十種類あります。五條市では流造と春日造の二種類です。

流造はスキヤのジャンプ台のように屋根が反っている様式で、全国的に多い様式です。春日造は、切妻造に向拝（拝礼する所の屋根）を不可した様式で近畿地方に多くあります。



春日造（切妻妻入り）

本殿の大きさを示すものに「一間社」とか「二間社」などがあります。これは正面から見た横の長さを表わします。奥行きは関係ありません。本社は奥行きが二間ですが、正面が三間あるので「三間社流造」という様式になります。



## 啓蟄

啓蟄は二十四節氣のひとつです。

「啓」は「開く」、「蟄」は「虫などが土中に隠れ閉じこもる」意味で、「啓蟄」で「冬籠りの虫が這い出る」という意味になります。今年三月五日が啓蟄となります。立春を過ぎて初めて鳴る初雷は、啓蟄の頃によく鳴るため、「虫出しの雷」とも呼ばれています。この日は「さあ働くぞ」と意気込み始める日とも言われます。この頃から一雨降るごとに気温が上がっていき、春に近づいていきます。日差しも徐々に暖かくなってきます。



筋肉痛が：

毎月一回、低山歩きをしてきました。昨年十一月から登っておらず、三カ月ぶりに山に行ってきました。御杖村の青少年旅行村から約二時間で頂上に着きます。標高は一二三五mです。登山道は整備されていて、初心者でも登れる山です。この時期は霧氷を見ることができるので、週末は多くの人で賑わいます。三三〇m級の日本アルプスに登ったあとは、軽い筋肉痛が起きますが、低山では筋肉痛は起きませんでした。ところが今回は筋肉痛が三日も続きました。三カ月の空白と、やはり雪道は余計な力を使っていることが原因です。積雪三〇cm以上あったので、六本歯のアイゼンを使うべきでした。

来月から月一登山を再開したいと思います。そして、大杉谷廻行、日本アルプス周遊ができるように体力をつけていこうと考えています。

Instagram @goryohongu



Twitter @goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。

公式ホームページ  
<http://goryojinja.or.jp>



日本書紀にみる

# 十代 崇神天皇 (六)

ここに、甘美韓日狹と鷓滯淳は朝廷に参つて、詳しくその様子を報告しました。

そこで吉備津彦と武淳河別とを遣わして、出雲振根を殺させました。

出雲臣らはこのことを恐れて、しばらく出雲大神を祭らないでいました。

丹波の氷上の人で、名は水香戸辺が、皇太子である活目尊に申し上げて、「私のところの小さな子供が、ひとりで歌っています。

水草の中に沈んでいる玉のような石。出雲の人の祈り祭る本物の見事な鏡。力強く活力を振るう立派な御神の鏡。水底の宝。宝の主。山河の水の洗う御魂。沈んで掛かっている立派な御神の鏡。水底の宝。宝の主。

これらは、子供の言葉のようではありません。あるいは、神が取り憑いて言うのかもしれませんが」と言いまし

た。そこで皇太子は、天皇に申し上げました。天皇は勅して、鏡を祭らせることにしました。

六十二年秋七月二日、詔して、「農業は国の本である。人民のたのみとして生きる場所である。今、河内の狭山の田圃は水が少ない。それで、その国の農民は農業を怠っている。そこで池や溝を掘って、民の生業を広めよう」と言われました。

冬十月に依網池を造りました。

十一月、荊坂池、反折池を造りました。

六十五年秋七月、任那国が蘇那易叱智を遣わして朝貢してきました。任那は筑紫を去ること二千余里。北の方、海を隔てて鶏林(新羅)の西南にあります。

天皇は即位されてから、六十八年の冬十二月五日、崩御されました。時に、年百二十歳。翌年八月十一日、山辺道上陵に葬りました。

(崇神天皇 おわり)

# 花高稲荷社殿墨書

須恵町に鎮座する統神社の境内社

に花高稲荷神社があります。照明のない白壁の覆屋の中に小社殿があるの

で、昼でも薄暗いところです。これまでも何回となく中に入り、社殿の裏側にも行きましたが、今回はじめて、社

殿の背面に文字が書かれているのに気づきました。江戸時代のくずし字のため全文は読めませんが、一部判明したことは、五條代官所の役人の名前と日付でした。

代官・内藤忠倫ほか、手附や手代の名前が列挙され、嘉永四年(一八五二)二月初午に、このお社を奉納したことが判明しました。内藤忠倫は天誅組に斬首された代官・鈴木源内の二代前の代官です。天誅組の変は文久三年(一八六三)八月に起き、代官所は火が放たれ焼失しましたが、そこに祀られていた花高稲荷神社は燃えずに残り、後に統神社に移転されています。

万葉の花たち

## つぎね(ヒトリシズカ)

つぎねふ山城道を 他夫の馬より行くに 己夫し 歩より行けば 見るごとに・・・(長歌)

作者未詳(巻十三・三三二四)

「山城への道を、よその御主人は馬に乗って行くのに私の夫は馬がないので歩いて行きます。見るたびに泣いてしまいます。母の形見の澄んだ鏡に蜻蛉の領巾を一緒に背負い持っていき馬を買いなさいよ」と続きます。大切なものを手放しても夫に辛い思いをさせたくないという深い愛情が感じられます。



及己はヒトリシズカのことです。早春に花穂を一本出して白い小さな花を開きます。フタリシズカは四〜五月頃二本の花穂が立ちます。いずれも静御前にちなむ名前です。